一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

# 第7回学術教育セミナー

## プログラム・抄録集

会　　期：平成29年10月15日（日）
AM 9：20 ～ PM 4：00

会　　場：東京慈恵会医科大学1号館　講堂（3階）

主　　催：一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

理 事 長：今井　裕

委 員 長：矢郷　香

代表世話人：林　勝彦

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

〒115－0055　東京都北区赤羽西6－31－5（株）学術社 内
TEL：03－5924－3621　FAX：03－5924－3622

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

# 第7回学術教育セミナー

## プログラム・抄録集

会　　期：平成29年10月15日（日）
AM 9：20 ～ PM 4：00

会　　場：東京慈恵会医科大学1号館　講堂（3階）

主　　催：一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

理 事 長：今井　裕

委 員 長：矢郷　香

代表世話人：林　勝彦

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

〒115－0055　東京都北区赤羽西6－31－5（株）学術社 内
TEL：03－5924－3621　FAX：03－5924－3622

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

# 第7回 学術教育セミナー

## PROGRAM

メインテーマ

## 『オーラルヘルスと全身疾患』

**9：20 ～**

開会の挨拶　理事長　今井　裕 …… ( 4 )

学術研修委員会委員長　矢郷　香 …… ( 5 )

## ［午前の部］

**9：30 ～ 10：30**

**「歯周病と全身の健康との関わり」** …… ( 8 )

**講師**：東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科
歯周病学分野　教授　和泉　雄一　先生

**座長**：東京歯科大学 口腔病態外科学講座　教授　片倉　朗　先生

< 休憩 10 分間 >

**10：40 ～ 11：40**

**「歯科ケアがどうして糖尿病ケアに重要なのか」** …… (10)

**講師**：東京女子医科大学 東医療センター　病院長　内潟　安子　先生

**座長**：東京女子医科大学医学部 歯科口腔外科学教室　教授　安藤　智博　先生

< 休憩 20 分間 >

**12：00 ～ 12：50**

**ランチョンセミナー【サンスター株式会社共催】**

**「心臓血管外科手術における周術期口腔管理」** …… (12)

**講師**：公益財団法人浜松市医療公社 浜松医療センター
口腔顎顔面センター長　内藤　克美　先生

**座長**：国際医療福祉大学 三田病院 歯科口腔外科　部長　矢郷　香　先生

< 休憩 20 分間 >

## ［午後の部］

**13：10 ～ 14：00**

**「歯周病と全身疾患の関連メカニズム・腸内細菌叢攪乱からの視点」** …… **(14)**

**講師**：新潟大学大学院 医歯学総合研究科 口腔保健学分野　教授　山崎　和久　先生

**座長**：東京大学大学院医学系研究科外科学専攻
感覚・運動機能医学講座 口腔顎顔面外科学分野　准教授　西條　英人　先生

**14：00 ～ 14：50**

**「慢性閉塞性肺疾患（COPD）と歯周病との関連」** …… **(16)**

**講師**：東京歯科大学 市川総合病院 呼吸器内科　教授　寺嶋　　毅　先生

**座長**：町田市民病院 歯科・口腔外科　部長　小笠原健文　先生

< 休憩 15 分間 >

**15：05 ～ 15：55**

**「口腔内から全身感染症へ　その対処と治療法 ～菌血症を中心に～」** …… **(18)**

**講師**：東京慈恵会医科大学附属病院 感染制御部　部長・教授　堀　　誠治　先生

**座長**：独立行政法人国立病院機構 霞ヶ浦医療センター
歯科口腔外科　部長　吉田　俊一　先生

**15：55 ～ 16：00**

閉 会 の 辞　　代表世話人・学術研修委員会委員　林　　勝彦 …… ( **6** )

修了証授与

# ご 挨 拶

一般社団法人　日本有病者歯科医療学会
理事長　今　井　　裕
（獨協医科大学　名誉教授・医学部特任教授）

第７回学術教育セミナーの開催にあたりまして，一言ご挨拶申し上げます．

はじめに，ご多忙にも関わらず講師を快く引き受けていただきました先生方に厚くお礼を申し上げます．また，会員の先生方におかれましては，教育セミナーの趣旨をご理解賜り，多くの先生方にご参加いただきましたことに心より敬意を払うものであります．

さて，社会構造の急激な変化，特に医療の分野においては，超高齢社会の到来による疾病構造の変化に対する対策が喫緊の課題であり，国は医療経済の観点も相俟って，「治す医療から治し支える医療へ」，そして「病院中心の医療から多職種連携による地域全体で診ていく医療へ」と，医療の在り方についてパラダイムの変換を求めています．歯科医療においても，高齢者で何らかの医学的配慮が必要な患者（有病者）つまりハイリスク患者や在宅患者の増加に対する適切な対応が求められるとともに，全身に対する口腔健康管理の位置づけが明確になる中で，国が目指す地域包括ケアシステムにどのように対応していくべきか，課題が山積しています．

今回の教育セミナーは，上記の趣旨に基づき企画されましたが，今回のテーマである「オーラルヘルスと全身疾患」は，これからの歯科医療の在り方を考えますと，医科との連携は当然のことながら，歯科医療における有病者歯科の在り方のひとつを示唆するものであると考えます．講師の先生方は，基礎研究は勿論のこと臨床にも精通された先生方であり，科学的な知見に基づき分かり易く解説され，明日の臨床に直ぐにでも還元できる貴重な講演となるものと信じている次第です．受講されます先生方におかれましては，この点を是非ご理解いただき，講師の先生方とご協力のうえ実りある研修会にしていただきますよう心よりお願い申し上げます．

末尾にあたりまして，本教育セミナーを担当して戴きました学術研修委員会の先生方におかれましては，すばらしい企画とそうそうたる講師の先生方をお招きいただき有難うございました．この紙面をお借りし改めてお礼申し上げますと共に，本教育セミナーが，会員の先生方にとり少しでもお役に立ち，国民の歯科・口腔医療に貢献することを祈念し，ご挨拶にかえさせていただきます．

# ご 挨 拶

一般社団法人　日本有病者歯科医療学会
学術研修委員会　委員長　矢　郷　　香
（国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科　部長）

第 7 回学術教育セミナーを 2017 年 10 月 15 日（日）に東京慈恵会医科大学附属病院で開催するにあたり，ご挨拶を申し上げます.

今回のメインテーマは「オーラルヘルスと全身疾患」で，第一線でご活躍される先生方にご講演頂きます.

歯周病は糖尿病の慢性合併症とされ，糖尿病患者において歯周病の罹患率，重症度が高く，また，歯周病治療により糖尿病患者の血糖値が改善されたとの報告もあります．そのため，糖尿病治療にはインスリンや経口血糖降下薬の薬物療法に加え口腔管理が必須で，歯科医師の果たす役割は大きく，糖尿病に関する知識の修得と共に，歯周病と糖尿病の相互関係のメカニズムを知ることが重要です.

そこで，午前の部は，歯周病学分野の和泉雄一先生に「歯周病と全身の健康との関わり」，糖尿病専門医の内潟安子先生に「歯科ケアがどうして糖尿病ケアに重要なのか」と題してご講演頂きます.

歯周病は糖尿病の他，冠動脈疾患，脳梗塞，誤嚥性肺炎，慢性閉塞性肺疾患（COPD），関節リウマチ，早産や低体重児出産との関連性も指摘され，歯周病が様々な全身疾患に影響を与えている可能性があります．近年，歯周病原細菌により腸内細菌叢が攪乱され，リーキーガット（腸管浸漏症候群）となりエンドトキセミア（内毒素血症）をきたし，血管や肝臓，腎臓などに炎症を惹起するという新たな仮説が注目されています.

そこで，午後の部は，山崎和久先生に「歯周病と全身疾患の関連メカニズム・腸内細菌叢攪乱からの視点」について，寺嶋　毅先生に「慢性閉塞性肺疾患（COPD）と歯周病との関連」，最後に堀　誠治先生に「口腔内から全身感染症へ，その対処と治療法～菌血症を中心に～」ついてご講演頂きます.

ランチョンセミナーはサンスター株式会社共催で内藤克美先生に「心臓血管外科手術における周術期口腔管理」と題して，病診連携，口腔管理の重要性について事例を紹介してご説明頂きます.

内科的治療に加えて歯周病予防や歯周病治療により健康寿命を延ばすことができるかもしれません．今回の企画が皆様の明日からの臨床に役立つことを祈念してやみません.

なお，セミナー会場入り口前に企業展示をさせて頂きますので，学術研修会の合間にご覧頂けますようにご案内申し上げます.

末尾にあたりまして，第 7 回学術教育セミナー開催にあたり代表世話人の林　勝彦先生はじめご高配，ご協力を賜りました関係者各位に心から御礼を申しあげます.

# ご 挨 拶

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会
代表世話人・学術研修委員会委員 林 勝 彦
（東京慈恵会医科大学歯科 教授）

皆様におかれましては，益々ご健勝のこととお慶び申し上げます．この度，平成 29 年 10 月 15 日（日）東京慈恵会医科大学 1 号館講堂に於いて，第 7 回学術教育セミナーを開催する運びとなりました．今回のセミナーの代表世話人として，ご挨拶を申し上げます．

本学会は，全人的歯科医療の知識と技術を啓蒙することを目的として，例年，学術教育セミナーを企画・開催してきました．本セミナーは，医科歯科問わず，職種を問わず，その道の第一線で活躍される先生方に講演をご依頼し，大学病院や病院歯科の歯科・口腔外科医から歯科診療所勤務の歯科医師，歯科医療従事者の方々まで裾野広く参加していただけるシームレスな学びの場となっております．

今回は「オーラルヘルスと全身疾患」をテーマといたしました．1990 年代以降に口腔内細菌や歯周病と全身の様々な疾患の関係に関する疫学的あるいは基礎的研究が数多く行われ，これらの関連性に関するエビデンスが蓄積してきました．話題性が先行しがちな本テーマにおいて，これまでの知見を整理し，新しくて正しい知識を獲得することが有病者歯科医療の実践にあたり重要であると考え，各分野ご専門の 6 人の先生にご講演いただきます．歯周病と全身疾患の関連メカニズム，口腔内細菌と糖尿病・感染性心内膜炎・慢性閉塞性肺疾患・全身感染症との関わり合い，それらに対する対応と治療まで，最新の知見をもとに解説していただきます．これまで以上に密接に医科と歯科が連携・協働することが，超高齢社会の QOL を向上するために重要であることを実感する講演内容であると確信します．

10 月 15 日，セミナー当日は，東京慈恵会医科大学の学祖である高木兼寛の記念日にあたります．高木兼寛の「病気を診ずして病人を診よ」との精神と，全人的医療を推進した足跡は，有病者歯科医療に対する示唆に富んでいます．参加される先生方や医療従事者の皆様方にとって「慈しみ，恵む想いで患者と接し，全人的歯科医療を施す」，そのような歯科医療人を目指す良い機会となれば幸いです．皆様が有意義な一日を過ごされますよう，学術研修委員会委員一同，そして慈恵医大歯科医局員とスタッフ一同，尽力いたします．

# 「歯周病と全身の健康との関わり」

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科歯周病学分野 教授　**和　泉　雄　一**

わが国は，高い教育・経済水準，保健・医療水準に支えられ，2007 年に「超高齢社会」に突入し世界でも有数の長寿国となっている．一方で，結婚や出産年齢が年々高まり，少子化も深刻化しつつある．このように急速な少子高齢化社会の到来を迎え，健康で長生きを喜べる社会，すなわち健康長寿社会の実現が大きな課題となっている．国内において歯科医療は「歯の健康」だけに焦点を合わせるのではなく，健康寿命を延ばすための医療として捉えられるようになった．2011 年 8 月には歯科口腔保健の推進に関する法律が公布・施行され，さらに，2013 年 4 月 1 日から 21 世紀における第二次国民健康づくり運動（健康日本 21（第二次））が実施された．この中では，全身との関わりにおいて，口腔疾患の予防や口腔保健の推進に積極的に取り組む必要性が強調されている．

口腔と全身との関連性が科学的に追求され，歯周病が全身疾患に密接に関係していることが次第に明らかにされた．心血管疾患の病態の本質は，血管内皮に生じた傷害に対する炎症反応である．慢性炎症を惹起する細菌に感染すると，末梢血管が直接傷害され動脈硬化の発症につながる．歯周病原細菌の感染によって血管壁に炎症が起こり，その結果新生内膜の肥厚や心筋虚血後の修復機転に異常をきたす可能性が示唆された．糖尿病は，歯周病の修飾因子であり，糖尿病の重症化が歯周病の病態に悪影響を与えることが広く知られている．また糖尿病患者は，歯周病原細菌に対する易感染性により歯周病に罹患しやすく，治癒しにくいと考えられている．最近の研究では，重症な歯周病患者は歯周局所で炎症性サイトカインが持続的に産生され，インスリンの作用を阻害するため，糖尿病が重症化しやすいと考えられている．また，2 型糖尿病患者では，抗菌薬の局所投与を併用した歯周治療により，血糖コントロールが改善（血中 HbA1c 値が低下）することが報告され，注目を集めている．また，妊娠過程において妊婦が重症な歯周病に罹患していると，早産や低体重児出産の危険率が増加する．

これからの歯科医療は，今までの単なる局所的な治療の提供だけではなく，生活支援や生活の質（QOL）の向上という視点から，その方向性や社会性が求められている．健康長寿社会を実現するためには，歯周病を予防し，歯周治療を積極的に行うことにより，口腔の健康管理を進めることが重要である．

# profile

**【略　　歴】**

1979 年　東京医科歯科大学歯学部　卒業
1983 年　東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了　歯学博士
1983 年　東京医科歯科大学歯学部歯科保存学第 2 講座　助手
1987 年　ジュネーブ大学医学部歯学科　客員講師（～ 1989 年 9 月）
1992 年　鹿児島大学歯学部　助教授（歯科保存学講座 2）
1999 年　鹿児島大学歯学部　教授（歯科保存学講座 2）
2003 年　鹿児島大学歯学部附属病院　副病院長
2007 年　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科　教授（歯周病学分野）
2008 年　東京医科歯科大学歯学部附属病院　病院長補佐
2014 年　東京医科歯科大学　副理事

**【社会活動】**

日本学術会議連携会員
日本歯周病学会前理事長
歯周病専門医・指導医
日本歯科保存学会理事
保存治療専門医・指導医
WCOI Japan 理事
口腔病学会理事
日本口腔インプラント学会代議員
日本再生医療学会代議員
American Academy of Periodontology（Editorial Advisory Board）
American Society of Microbiology（Active Member）
Asian Pacific Society of Periodontology（Treasurer）

# 「歯科ケアがどうして糖尿病ケアに重要なのか」

東京女子医科大学 東医療センター 病院長　**内　潟　安　子**

糖尿病が強く疑われる人（糖尿病有病者），糖尿病の可能性を否定できない人（糖尿病予備群に相当）の統計は5年ごとの厚労省国民健康・栄養調査で公開される．

ここから，日本の糖尿病の現状を知ることができる．よく知られているように，前者群はまだ増加しており，後者群は横ばいになった可能性がみられているだけで，同じく厚労省の3年ごとに実施している患者調査の平成26年度のそれによっても，糖尿病患者数は間違いなく増加している．上記に言う糖尿病とは2型糖尿病のことである．健診が盛んな日本においても，他国と同じく2型糖尿病人口を止められない．

その一方で，2型糖尿病の病態，病因は勢力的に検索されてきた．その結果は，糖尿病薬の種類の多さからも推察できることだろう．

現在，経口血糖降下薬は7種類，それに注射薬にインスリン製剤とGLP-1受容体作動薬とあわせて9種類がある．そして，インスリン製剤にはさらに多くの種類があり，糖尿病専門医はこれらを単独あるいは併用して血糖コントロールしていき，急性合併症と慢性合併症を発症させない，進展させずに，健康人と変わらない日常生活の質を維持し，健康な人と変わらない寿命が確保できることを目標に，日々診療に従事している．

肺炎などの急性感染症時の高血糖はよく知られたことであるが，歯周病菌が局所炎症から血行性に，あるいは炎症性サイトカインを介して全身に影響を及ぼすことが明らかになり，動脈硬化疾患から自己免疫疾患まで多くの慢性疾患との関連が言われてきた．

糖尿病との関連は，糖尿病病態の悪化と歯周病の悪化の相互連関，細小血管障害から大血管障害さらには認知症まで糖尿病性慢性合併症の増悪，糖尿病患者の死亡率の増悪など，多くの報告がある．歯周病自体，まさしく糖尿病性慢性合併症のひとつである．

東京女子医科大学糖尿病センター長時代，外来診療でも，入院患者さんは回診で，歯科診療をよくお勧めした．劇的な改善の経験はなかったが，噛む行為ができにくくなると流動食に近い食べ物（単糖類の豊富な食べ物）になってしまい，血糖悪化の一因となっていた．食事療法は糖尿病治療の根本の治療であるが，食事内容の指導をするまえにもっと咀嚼に注意を払わねばならない．

昨今の知見とともに，歯科診療を十分にしていただくための内科医の糖尿病ケアへの注文をどうか，お聞かせください．

# profile

**【略　　歴】**

| | |
|---|---|
| 昭和 56 年 3 月 | 金沢大学医学部大学院内科系専攻博士課程修了 |
| 昭和 58 年 11 月 | 米国国立衛生研究所（NIH/NIDR）（Dr. AL Notkins）の Visiting Fellow と Visiting Associate |
| 昭和 62 年 4 月 | 東京女子医科大学内科学（第三）講座・糖尿病センター助手 |
| 平成 4 年 4 月 | 東京女子医科大学内科学（第三）講座・糖尿病センター講師 |
| 平成 8 年 10 月 | 東京女子医科大学内科学（第三）講座・糖尿病センター助教授 |
| 平成 16 年 10 月 | 東京女子医科大学内科学（第三）講座・糖尿病センター 教授 |
| 平成 23 年 4 月より | 東京女子医科大学内科学（第三）教授・講座主任ならびに東京女子医科大学糖尿病センター長（平成 29 年 3 月まで） |
| 平成 27 年 4 月より | 東京女子医科大学病院副院長（平成 29 年 3 月まで） |
| 平成 28 年 4 月より | 東京女子医科大学理事 |
| 平成 29 年 4 月より | 東京女子医科大学東医療センター病院長 |

**【学会・研究会開催】**

第 11 回 小児思春期糖尿病研究会
第 31 回 日本糖尿病・妊娠学会学術集会
第 50 回 日本糖尿病学会「糖尿病学に進歩」

**【主な著書および自 URL】**

「小児・ヤング糖尿病 ーのびのびしっかりサポート」（CBR 社）
「いま，1 型糖尿病は」　www.dm-net.co.jp/ichigata/

**【その他の主な役員】**

・日本内科学会評議員　・日本糖尿病学会評議員
・日本糖尿病学会理事　・東京都糖尿病対策推進会議メンバー
・日本糖尿病学会 1 型糖尿病調査研究委員会委員
・日本糖尿病協会理事　・日本糖尿病協会インスリンケアサポート委員会委員長
・日本糖尿病・妊娠学会評議員　・日本糖尿病・妊娠学会常務理事
・小児インスリン治療研究会世話人/日本小児・思春期糖尿病研究会理事
・「糖尿病診療マスター」（医学書院）編集人
・日本女医会理事

平成 29 年 8 月現在

12：00～12：50

ランチョンセミナー【サンスター株式会社共催】

# 「心臓血管外科手術における周術期口腔管理」

公益財団法人浜松市医療公社 浜松医療センター
口腔顎顔面センター長　**内　藤　克　美**

心臓血管外科手術における口腔の管理は，人工弁置換術後，先天性心疾患，大動脈弁・僧房弁閉鎖不全症などのある患者が，観血的歯科治療により感染性心内膜炎を起こす可能性が高いといわれていることから重要なものと認識されている．これら心臓疾患を持った患者の観血的歯科処置時には，事前の抗菌薬予防投与が必要であることは周知の事実であり，AHA（米国心臓協会），ESC（European Society of Cardiology），日本循環器病学会などが事前の抗菌薬予防投与に関するガイドラインを策定し公表している．当院では2012年より心臓血管外科で行われる開心術後のトラブル防止を目的に，心臓血管外科，循環器内科の協力のもと周術期口腔機能管理を継続しておこなっている．当科への受診は，患者が心臓血管外科を受診，手術が必要となった時点で口腔の管理が必要であることを心臓血管外科医（あるいは外来看護師）より患者に伝え受診する経路を取っている．外来通院中に当科において口腔のスクリーニングを行い感染巣の除去を計画し治療方法，治療期間等を心臓血管外科医と相談，心臓手術の日程を決定している．術前には専門的口腔清掃，患者への清掃指導，歯科治療等を実施．入院後も継続して口腔の衛生保持を行うとともに病棟看護師への指示教育を継続実施．退院後も経過を観察するとともにかかりつけ歯科医院との連携を行い，補綴処置等を依頼するという一連の流れで管理を行っている．本日は開心術の中でも代表的な弁置換術を行うにあたり，弁置置換術の説明，当院で取り組んでいる周術期口腔機能管理について説明を行うとともに，当科で経験した症例の概要について供覧する．

# profile

**【学　　歴】**

昭和 51 年 3 月　愛知県立刈谷北高等学校卒業
昭和 57 年 3 月　岐阜歯科大学歯学部卒業

**【職　　歴】**

昭和 57 年 4 月　岐阜歯科大学歯学部口腔外科学第Ⅱ講座入局
昭和 58 年 5 月　国立名古屋病院歯科口腔外科出向
昭和 62 年 4 月　朝日大学歯学部　助手
平成 2 年 4 月　市立島田市民病院歯科口腔外科出向
　　朝日大学歯学部非常勤講師（現在に至る）
平成 7 年 4 月　県西部浜松医療センター歯科口腔外科　科長
　　(現在：浜松医療センターに名称変更)
平成 26 年 4 月　京都府立医科大学客員講師（現在に至る）
平成 28 年 4 月　浜松医療センター　口腔顎顔面センター長

**【学位・資格・免許】**

歯科医師免許（登録：昭和 57 年 6 月 22 日，第 87216 号）
歯学博士

ICD（インフェクションコントロールドクター）
日本口腔外科学会専門医・指導医
日本有病者歯科医療学会理事・専門医・指導医・代議員

# 「歯周病と全身疾患の関連メカニズム・腸内細菌叢攪乱からの視点」

新潟大学大学院 医歯学総合研究科 口腔保健学分野 教授　**山　崎　和　久**

近年，口腔細菌叢の構成異常（dysbiosis）によって引き起こされる歯周病が糖尿病などの代謝性疾患，動脈硬化性疾患，自己免疫疾患，がんなど，様々な疾患のリスクを高めることが疫学研究により明らかになってきた．因果関係を説明するメカニズムとして菌血症，炎症性サイトカイン，分子相同性に基づく自己免疫応答が挙げられているが，生物学的メカニズムに関するエビデンスは十分とは言えない．

一方，歯周病が関連すると報告されている疾患の多くは腸内細菌叢の dysbiosis と関連するという報告が蓄積されている．歯周病原細菌を含む dysbiosis に陥った口腔細菌を恒常的に飲み込むことで腸内細菌のバランスが崩れ，その結果腸管免疫系が炎症性にシフトし，有害細菌の比率が高まると同時に有害物質が増加する状況が作られると仮定すると，歯周病による様々な疾患リスクの増加に対する因果関係が合理的に説明できることになる．

我々は C57BL/6 マウスに代表的なヒト歯周病原細菌 *Porphyromonas gingivalis* W83 株を口腔から投与し，回腸内容物，糞便の細菌叢を網羅的に解析するとともに糖代謝，脂肪組織，肝臓の炎症性変化，遺伝子発現変動について解析した．

その結果，*P. gingivalis* 口腔投与に伴って，腸内細菌叢のバランスが変化することが明らかになったが，同時に *P. gingivalis* の腸管内への定着・増殖によるものではないことも明らかになった．*P. gingivalis* 投与群では脂肪，肝臓における炎症性サイトカイン遺伝子，インスリン抵抗性関連の発現上昇が認められたが，これらの変化は腸管におけるタイト結合タンパク遺伝子発現の低下とそれに随伴する血中エンドトキシンレベルの上昇に起因すると考えられた．さらに，その後の解析で腸管免疫系のバランスにも影響を与えることが明らかになり，コラーゲン誘導関節炎モデルマウスを用いた実験で関節リウマチとの関連メカニズムを示唆するデータも得られている．

このように，マウスにおける *P. gingivalis* 口腔投与の実験結果は，従来の仮説では十分に説明することができなかった歯周病と全身疾患の関連の因果関係を説明するのに合理的な生物学的分子基盤を提供するのみならず，口腔の健康が全身の健康に直結していることを改めて認識させてくれる．

現在実際の歯周炎患者における唾液細菌叢と腸内細菌叢の解析も進めており，興味深い結果が得られつつある．

# profile

**【略　　歴】**

1980 年　神奈川歯科大学卒業
1985 年　新潟大学大学院歯学研究科修了
1985 年　新潟大学歯学部附属病院　第二保存科　助手
1986 年　クイーンズランド大学（オーストラリア）　研究員（1988 年まで）
1988 年　新潟大学歯学部附属病院　第二保存科　講師
1993 年　日本歯周病学会専門医
1996 年　日本歯周病学会指導医
1999 年　新潟大学歯学部　歯科保存学第二講座　助教授
2004 年　新潟大学歯学部　口腔生命福祉学科口腔衛生支援学講座　教授
2006 年　新潟大学超域学術院　教授（併任 2012 年まで）
2010 年　新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野　教授

**【社会活動】**

日本歯周病学会常任理事（医療委員会委員長）
国際歯科研究学会（JADR）会長（2017 年－ 2018 年）

**【受 賞 等】**

2002 年　日本歯周病学会学術賞
2016 年　IADR Distinguished Scientist Award for Basic Research in Periodontal Disease

# 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）と歯周病との関連」

東京歯科大学 市川総合病院 呼吸器内科 教授　**寺　嶋　　毅**

COPD は主に喫煙によってもたらされる肺の慢性の炎症性疾患で，咳・痰・労作時の息切れをきたし徐々に進行する．かつて肺気腫，慢性気管支炎と呼ばれていた疾患が含まれる．世界的にみると，COPD の患者数は 2 億人，年間死亡者数は 300 万人と推定されている．我が国でも COPD による死亡数は 2015 年には約 16,000 人，死亡順位 10 位，男性では 8 位となっている．また，COPD は心血管疾患，消化器疾患，糖尿病，骨粗鬆症，うつなどの併存疾患が多く，全身性の疾患ととらえられており，合併症も含めた管理が患者の予後や QOL に影響する．我が国での患者数は約 530 万人と推定されているが，国民の COPD の認知度は 3 割未満と低く，健康日本 21 では 10 年後の認知度を 80 % まで向上させることを目標にしている．歯周病の減少も健康日本 21 の目標に掲げられているが，喫煙が発症に関与していること，口腔内の慢性炎症のみならず，虚血性心疾患や糖尿病などの全身疾患の発症や進行に影響を及ぼすことなど，COPD と共通点が多い．しかしながら，COPD と歯周病の相互の病態への関与は明らかにされていない．

我々は COPD における歯周病の有病率，および歯周病の病態が COPD 患者の栄養状態や急性増悪に与える影響について検討した．COPD 群では非 COPD 群（喫煙歴あり）や非喫煙群に比較して，残存歯数が少ないこと，歯周病の有病率が高いことが確認された．さらに，歯周病の病態が低アルブミン血症に関与していること，残存歯数が少ないことが COPD の急性増悪に寄与している可能性が示唆された．

次に COPD 患者における咀嚼機能，咀嚼時の低酸素血症について検討したところ，全身の筋肉量や残存歯数が少ないと咀嚼機能が低下すること，咀嚼時の経皮的動脈血酸素飽和度（$SpO_2$）の低下量が大きいことが判明した．

COPD では歯周病の合併が多い理由として，加齢，喫煙習慣，口腔内の衛生状態，健康に対する意識などに加えて，全身慢性炎症が相互に関与している可能性がある．COPD 患者の血清および唾液中バイオマーカーと歯周病との関連について検討したところ，血清 CRP と唾液 CRP に相関を認めた．また，閉塞性呼吸機能障害の程度と唾液量の減少，ポケットデプスが 4 mm 以上の歯の本数と唾液 MMP-9 濃度の上昇との間に関連を認めた．

COPD と歯周病は，加齢，喫煙習慣など共通の危険因子に加えて，慢性炎症，歯牙の喪失，咀嚼機能の低下，低栄養，サルコペニアなどを介してして密に関連していると考えられる．

# profile

**【職歴および研究歴】**

昭和 63 年 4 月　慶應義塾大学医学部内科学教室　研修医
平成 2 年 5 月　社会保険埼玉中央病院　内科　医員
平成 4 年 6 月　慶應義塾大学医学部内科学教室呼吸循環研究室　専修医
平成 7 年 1 月　カナダ British Columbia 大学医学部胸部研究室に研究留学
平成 9 年 7 月　東京歯科大学市川総合病院内科学講座 助手
平成 11 年 4 月　東京歯科大学市川総合病院内科学講座 講師
平成 20 年 6 月　東京歯科大学市川総合病院内科学講座 准教授
平成 21 年 2 月　慶應義塾大学医学部呼吸器内科　非常勤講師　兼任
平成 23 年 12 月　千葉県立幕張総合高等学校看護科・専攻科　非常勤講師　兼任
平成 24 年 11 月　東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科　部長 准教授
平成 26 年 11 月　東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科　教授　内科部長兼任
平成 27 年 4 月　慶應義塾大学看護学部大学院健康マネジメント研究科非常勤講師兼任

**【学会および社会における活動】**

Chest 査読委員
Editorial Board of ‘TheScientificWorldJOURNAL’
Editorial Board of ‘Case Reports in Pulmonology’
Editorial Board of ‘Journal of Respiratory Research’
東京陸上競技協会医事委員
千葉県社会保険診療報酬請求審査委員会審査委員

**【所属学会・役職】**

内科学会認定専門医
呼吸器学会認定専門医，指導医
臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医
呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医
感染症学会専門医
日本体育協会公認スポーツドクター

# 「口腔内から全身感染症へ その対処と治療法～菌血症を中心に～」

東京慈恵会医科大学附属病院 感染制御部 部長・教授　**堀　　誠　治**

口腔内には多くの細菌が存在し，常在菌叢を形成していることは言を待たない．口腔内常在菌が，口腔内で生活している限り，宿主である我々との争いが生じる可能性は低い．しかし，本来口腔内で生活している菌が，何らかの理由で通常の住み家である口腔内を離れ，他の部位に入り込み，そこに定着・発育をし，さらに，宿主に対して何らかの障害を引き起こすことがある．この場合には，菌と宿主の争いに発展する．今回は，我々が，本来の生活場所でないところで，我々に対し悪さを発揮している菌にどの様に対処するのが良いかを考えてみたい．

口腔内の細菌により引き起こされる全身感染症として，第一に挙げられるのは，“感染性心内膜炎”であろう．口腔内細菌が，歯科的な手技などをきっかけにして血流にはいり，心内膜・心臓の弁などに定着・増殖して，何らかの障害を宿主にもたらすのが，感染性心内膜炎ということができよう．診断としては，血液培養陽性と心内膜の障害などを目安として診断を行う(修正された Duke の診断基準)．治療に関しては，想定される菌種により抗菌薬の選択を行うが，治療期間は 4 週間～ 6 週間と長期投与が必要とされている．

近年の社会の高齢化に伴い，誤嚥性肺炎の危険性が増加している．高齢者施設などでの肺炎では，誤嚥の可能性を考え，口腔内の嫌気性菌の関与も考えなくてはならない．このような肺炎の治療に際しては，嫌気性菌にも抗菌活性を有する抗菌薬の選択が必要となる．一方で，嚥下性肺炎の可能性を低下させるために，口腔内ケアの重要性が叫ばれている．

今回は，これらの感染症を中心として，どの様な場合に感染症を疑うか，抗菌薬の選択はどうするか，抗菌薬の投与法（用法・用量）はどうするか，また，抗菌薬投与はどのくらい続けるかなどについて，考えてみたい．とくに，抗菌薬の用法・用量設定の最近の進歩にはめざましいものがあるが，その根拠などについても復習・整理をしたい．

御参加いただいた先生方のお役に立つようなお話ができれば幸いである．

# profile

**【学　　歴】**

1979 年 3 月　東京慈恵会医科大学卒業
1979 年 4 月　東京慈恵会医科大学大学院医学研究科入学
1979 年 5 月　第 67 回医師国家試験合格（医籍登録　第 245375 号）
1983 年 3 月　東京慈恵会医科大学大学院医学研究科単位取得
1984 年 4 月　医学博士の学位受領

**【職　　歴】**

1983 年 4 月　東京慈恵会医科大学医化学教室助手
1985 年 5 月　東京慈恵会医科大学第 2 内科学教室助手，医化学教室兼任講師
1988 年 9 月　Harvard Medical School 留学（Channing Laboratory，Research Fellow）
1991 年 7 月　聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター講師，
　　同センター抗微生物薬研究室長
1994 年 5 月　東京慈恵会医科大学薬理学講座助手
　　講師・助教授をへて
2001 年 3 月　東京慈恵会医科大学薬理学講座教授
2008 年 4 月　慶應義塾大学薬学部客員教授　（～現在）
2010 年 7 月　東京慈恵会医科大学感染制御科教授，同大学附属病院感染制御部診療部長
　　（～現在）

**【所属学会など（主なもの，現職）】**

公益社団法人　日本化学療法学会　理　事
一般社団法人　日本環境感染学会　評議員
一般社団法人　日本感染症学会　評議員
一般社団法人　日本臨床薬理学会　評議員
一般社団法人　日本薬理学会　学術評議員
日本臨床腸内微生物学会　理　事

日本内科学会　日本呼吸器学会　日本臨床微生物学会
日本医療薬学会　日本 TDM 学会　日本薬学会
American Society for Microbiology

**【その他】**

慈恵医師会　理　事
東京都医師会　学術委員
日本医師会　産業医

# 漢方医学と西洋医学の融合により
# 世界で類のない最高の医療提供に貢献します

自然と健康を科学する
漢方のツムラ

http://www.tsumura.co.jp/
●お問い合せは、お客様相談窓口まで。
【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970 【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930

（2016年9月制作）OWCAb04-K㊫

# お口の健康づくりに今すぐ始めたい口腔ケア

ボトルタイプになりました
ケアする際に定量しやすくなりました。
（1回あたり1～3プッシュ目安）

研磨剤　発泡剤　エタノール
無配合

新発売

口腔ケア用ジェル
## リフレケア®

医薬部外品
口腔ケア用ジェルハミガキ(薬用)

はちみつ風味／70g
希望小売価格 2,000円(税抜)
mini　はちみつ風味／30g
希望小売価格 1,100円(税抜)

ライム風味／70g
希望小売価格 2,000円(税抜)
mini　ライム風味／30g
希望小売価格 1,100円(税抜)

りんご風味／70g
希望小売価格 2,000円(税抜)
mini　りんご風味／30g
希望小売価格 1,100円(税抜)

口腔ケア用スプレー
## リフレケア® ミスト

リフレケアミスト ライム風味
希望小売価格 1,500円(税抜)

口腔化粧品
口腔湿潤ジェル

お問い合わせ先：イーエヌ大塚製薬株式会社 **0120-11-4327**
（受付時間：9時から17時 土・日・祝日・弊社休日を除く）
使用方法など、詳しい商品情報満載なウェブサイト **http://www.refre-care.jp/**

発売元 イーエヌ大塚製薬株式会社　岩手県花巻市二枚橋第4地割3-5

販売提携先　雪印ビーンスターク株式会社　札幌市東区苗穂町6-1-1
製造販売元　日本ゼトック株式会社　東京都新宿区西新宿1-26-2

## ランチョンセミナー

サンスター株式会社

## 広告掲載企業一覧

イーエヌ大塚製薬株式会社

サンスター株式会社

株式会社ツムラ

## 展示会出展企業一覧

相田化学工業株式会社

オーラス

クロステック株式会社

昭和薬品化工株式会社

ティーアンドケー株式会社

株式会社ハセガワメディカル

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

〒115-0055 東京都北区赤羽西６－31－５
（株）学術社内
一般社団法人 日本有病者歯科医療学会事務局

TEL：03－5924－3621
FAX：03－5924－3622

SUNSTAR

疾患治療に伴う口腔トラブルをもった患者様のお口のケアのために。

# バトラー口腔ケアシリーズ

Speciality Goods

BUTLER®

1923年以来、世界のデンタルプロフェッショナルに愛用され、今もなお進化しつづけるブランド——BUTLER〈バトラー〉。

商品のお問い合わせ 072-682-4733

http://jp.sunstar.com

サンスター株式会社 〒569-1195 大阪府高槻市朝日町3番1号

※パッケージデザインは予告無く変更される場合があります。

®登録商標。BUTLER®は登録商標です。